映画英語を通した生成文法理論研究
―間接疑問文削除の例を中心に―

平井 大輔

0. はじめに

Digital Video Disc（DVD）の普及によって、過去に公開された映画から最新の映画まで、とても容易に入手することが可能となった。このDVDの利点は、さまざまな映画が楽しめるだけではない。DVDに含まれている字幕データに最大の利点がある。これまでのビデオテープでは到底不可能であったが、DVDの記憶容量の大きさの利点を活かし、映画のセリフが日本語字幕に限らず、英語字幕も収録されている映画が多くなっている。このようなDVDに含まれている字幕情報を活かし、研究と教育目的のために、2009年に映画英語教育学会関西支部の一部の会員によって978本にも及ぶ映画のセリフ（英語）がデータベース化された（「ATEM関西支部映画英語字幕データベース」）。また、インターネットでもスクリーンプレイ社が75本の映画について、字幕検索ページ（http://www.screenplay.co.jp）を公開し、映画の中の発話データが容易に検索できる。[1]

このようなデータベースに含まれている映画で話される英語のデータは、英語学習や英語教育に活かすだけでなく、そこから生成文法などの理論言語学を研究する我々も多くのことを学ぶことが出来ることが期待できる。理論言語学とその他関連する分野の研究の進展に伴い、これまでの事実の再検討は言うまでもなく、新たなデータの発掘とそれらの事実に対する新たな妥当性の高い分析が求められている。そこで、映画のセリフのようなオーセンティックな英語に近いと言っても過言ではないデータを用いることは非常に有益であると考えられる。本論では、上述した映画英語のデータを活用して、(1) に示されているような間接疑問文削除（Sluicing）と呼ばれる文が、生成文法の枠組みにおいてどのように派生されるのかを探ってみたい。

(1) a. The guests know something happened, but they don't know what.
(National Treasure)

b. Somebody put a big bomb in a school somewhere. Only they don't know which one. (Die Hard with a Vengeance)

1．先行研究

(1)のような間接疑問文削除の例は、Ross（1969）が（2）のような例を用いて紹介し、その後は今日に至るまで生成文法の枠組みにおいて、その派生方法について長い間議論されてきた。

（2） a．Somebody just left. — Guess who (just left).

b．Ralph is going to invite somebody from Kankakee to the party, but they don't know who (he's going to invite to the party). (Ross (1969: 252))

(2)の括弧内の要素は、音声上は発話されないが、その中に示したように解釈されることが可能であるという点と、（3）のようにいわゆる「島」を超えた操作が許されるという点から、この文の派生に関しては、ミニマリスト・プログラムに入った現在でも明らかにされていない。

（3） a．I believe the claim that he bit someone, but they don't know who (I believe [the **claim that he bit**]). (複合名詞句)

b．She kissed a man who bit one of my friends, but Tom doesn't realize which one of my friends (she kissed [**a man who bit**]). (関係代名詞節)

c．That he'll hire someone is possible, but I won't divulge who (that he'll hire [**is possible**]). (Ross (1969: 276-277)) (文主語)

d．We are supposed to be particularly polite, if a certain linguist shows up, but do you remember who (we are supposed to be particularly polite [**if shows up**])? (cf. Reinhart (2006: 72)) (付加節)

e．Sandy was trying to work out which students would be able to solve a certain problem, but she wouldn't tell us which one (she was trying to work out [**which students would be able to solve**]). (Chung, Ladusaw, and McCloskey (1995: 272)) (間接疑問文)

（太字と括弧は筆者による）

このセクションでは、これまでに提案されてきた2つの主なアプローチをChomsky（1995）をはじめとするミニマリスト・プログラムの点から概観し、より妥当な分析の方

向性を探ってみたい。

1.1 LF コピー分析

間接疑問文削除を含む文を派生する一つの方法として、削除部分は統語部門の段階では存在せず、LF 部門おいて先行文の対応する要素が削除部分に LF 部門でコピーされるとする分析が Chung, Ladusaw, and McCloskey (CLM) (1995) によって提案されている。彼らによれば、削除を含む第 2 文が統語部門から Spell-out を受ける段階では、(1a) は (4) のような構造をしていると仮定されている。

(4) The guests know something happened, but they don't know what [e].

Heim (1982) によれば、不定名詞は LF では変項として捉えられ、束縛する要素がない場合は存在を表す数量詞 (∃) が挿入されると主張している。この考えに基づけば、(4) の先行文の LF 構造は (5) のように表される。

(5) (∃ x: thing (x)) [the guests know x happened]

不定名詞である something は変項として捉えられ、束縛演算子として機能する存在の数量詞 (∃) が束縛演算子として導入される。

一方、LF コピーを受ける前の第二文の LF 構造は、wh 句のみ存在しているので、(6) のような構造をしている。

(6) they don't know (what x : thing (x) [e]

この [e] の部分に、先行文の(5)の構造を LF でコピーすることによって (7) の構造が派生される。その結果、変項 (ここでは x) が演算子により束縛されることによりこの文脈で求められる適切な解釈が可能となる。

(7) The guests know something happened, but they don't know what [e] .
(∃ x: thing (x)) [The guests know x happened], but they don't know
(what x : thing (x) [the guests know x happened]

しかし、このCLMの分析にはいくつかの問題がある。Merchant（2001）が指摘するように、不定名詞が常に変項として捉えられるなら、(8) のような文が適正文とならなければないが、(8) の事実が示す通り非文と判断される。

(8) *The guests know something happened, but they don't know what something happened.

さらに概念的な問題もある。以下に示したように、Chomsky（2008）などの最近のミニマリスト・アプローチでは、ボトムアップで構造の構築が進み、すでに構築された統語的要素に統語的操作を施すのは許されない。

No Tampering Condition (NTC)
Merge of X and Y leaves the two syntactic objects unchanged ... Merge cannot break up X or Y, or add new features to them. (Chomsky (2008: 138))

CLMで提案されているLFコピー操作を併合操作（Merge）の一種として捉えるならば、上記のNTCから空所である［ e ］にLF部門で先行文のLF構造が導入（併合）することは不可能となる。したがって、このLFコピーに基づくこの分析は、理論的、経験的にも妥当であるとは言い難い。次にこの分析の代案となるPF削除分析を見てみよう。

1.2 PF削除分析

削除現象に関しては、PF部門で削除されるとする分析がこれまで広く受け入れられ、動詞句削除やその他のさまざまな削除現象に対して仮定されている。この間接疑問文削除に関しても、Chomsky（1972）やFox and Lasnik（2003）、Merchant（2001）、Ross（1969）などが、統語的要素は統語部門で一度構築され、それがPF部分で文字通りの削除操作を受けると提案している。

(9) The guests know something happened, but they don't know what$_i$ (~~t_i happened~~).

(9) を例にとれば、一度導入されたwh句が補文のCP指定位置に移動した後、TP以下の部分が削除されると考えている。

Ross は、wh 句の格標示に関する事実から PF での削除を支持している。

(10) a. Ralph is going to invite somebody from Kankakee to the party, but they don't know who/whom. (Ross (1969: 252))

b. Somebody from Kankakee is going to be invited to the party by Ralph, but they don't know who/*whom. (ibid.: 254)

(cf. *whom is going to be invited to the party.)

疑問詞 whom を許す英語においては、(10a) の環境では who と whom の両方を許すが、(10b) の環境では who のみが許され、whom が現れると非文と判断される。Chomsky (2008) などで仮定されているように、probe-goal の関係で統語部門において格の値が決められるという立場をとれば、削除される前に格の値を与える要素が存在しており、そのため (10b) の whom が排除されると考えることができる。LF コピー分析では、(10) の事実に自然な説明を与えることができない。この事実から、PF 削除分析がより妥当であると考えられている。[2]

Chomsky (1972) や Fox and Lasnik (2003) は、この PF 削除分析を「島」を含む間接疑問文削除の説明にも適用している。Fox and Lasnik (2003) は、Chomsky (1972) に従って、wh 句が「島」を通過する際に(11)のように # が「島」に付与され、それが PF で削除されずに残れば非文となるが、削除されれば適正文になると主張することにより (11) の事実を説明している。[3]

(11) I believe the claim that he bit someone, but they don't know who* (I believe [#the claim that he bit) .

しかし、どのような環境でも削除操作が許されるわけではなく、以下のような一般化が提案されている。

PF パラレリズム (間接疑問文削除)

先行文において wh 句に格付与される位置と同じ位置に不定名詞句が存在すれば、後続する文の wh 句以下を削除できる。

((Chomsky (1972), Fox and Lasnik (2003), Ross (1969), Merchant (2001))

このパラレリズムは、(12) の文法性を正しく説明できる。

(12) *He likes Abby, but I don't know who else (he likes *t*)? (Fox and Lasnik (2003))

このような事実により、PF 削除分析はかなり広く受け入れられているが、妥当性を追求するためには、あらたなデータが必要であると思える。この問題に関して、前後の文脈が明らかに見てとれる映画に見られるセリフから探ってみることにする。

2. 映画の用例の検索

これまでは、削除現象、特に間接疑問文削除に関して LF コピー分析と PF 削除分析の2つの分析を概観してきたが、どちらの分析がより妥当であるかという問題は、生成文法理論のみならずその他の理論言語学の発展にも大きな意義を持つ。

そこで、新たな事実の発掘のために、間接疑問文削除と思えるデータをスクリーンプレイ社によるホームページ「映画犬サク」(http://www.screenplay.co.jp/) と 978 本の映画(英語)のセリフをデータベース化した「ATEM 関西支部映画英語字幕データベース」からコーパス検索ソフト (AntConc) を用いて検索し、そのデータを基により妥当な分析を考えてみることにする。

データの検索には、(13) に示した3例を使用した。

(13) a. which one.
b. wh*.
c. how.

紙面の都合上、すべての例を示すことは出来ないが、データベースからもそのいくつかを示しておく。

(14) which one
a. The target's a natural gas distribution centre. Natural gas? He can use it to deliver Sentox, to get it into people's homes. Get Chloe on it. We need to find which one. (24 Twenty Four Season V Vol. 15)
b. There's about a thousand containers, and we don't know which one. (24

Twenty Four Season V Vol. 6)

c. Only one is horny. I'm not saying which one. (Doc Hollywood)

d. Bob Thomas has been talking to a European drug company, Jack, and we don't know which one. (The Family Man)

e. One of you call Hertz or Avis. I don't care which one. (The Gauntlet)

f. One of you is going to die. Which one...will be up to you. (The Matrix)

(15) wh*/how

a. If somebody's stealing our money, we got to find out who. (The Negotiator)

b. CHIRS CHANDLER: The thing is, Sidney....somebody else is saying that pay it forward was their idea.

SIDNEY PARKER: Who?

CHRIS CHANDLER: I think you know who. (Pay Forward)

c. I want to get Capone. I don't know how. (The Untouchables)

d. They're gone! I don't know why! (Cast Away)

e. There's somebody else involved. I don't, I don't know who. (Ghost)

3. 映画の用例が示すこと

検索して入手できたデータのほとんどは、前節で概観したPFパラレリズムにあてはまるように思える。しかし、ここで非常に興味深い例が、映画「Ghost ゴースト～ニューヨークの幻～」の中の1シーンに見られる。この映画には、殺害されたSamが、霊媒師Oda Maeによって亡霊として現れ、霊媒師に話しかけるシーンがある。その一節を前後のセリフと共にみてみよう。

(16) Ghost (00:53:56)

ODA MAE: He was murdered.

SAM: There's somebody else involved.

SAM : I don't, I don't know who, but...

この例は、すでに見たパラレリズム（以下に再掲）が必ずしも正しい一般化でないことを示している。

PF パラレリズム （間接疑問文削除）

先行文において wh 句に格付与される位置と同じ位置に不定名詞句が存在すれば、

後続する文の wh 句以下を削除できる。

このパラレリズムが正しくないということを支持する事実がある。以下の事実を見てみよう。[4]

(17) a. ?*Who$_i$ is there t_i involved?

b. Who$_i$ t_i is involved?

(17) に見られるように、虚辞 there を含んだ疑問文は非文となる。また、これを間接疑問文を含む文脈で組み入れると、削除受ける前の PF 構造は (18) のようになると考えられる。

(18) a. *There is somebody else involved; I don't know who$_i$ (there is t_i involved).

b. There is somebody else involved; I don't know who$_i$ (t_i is involved).

上で示した PF パラレリズムは、(16) に関して (18a) の文を適正文であると予測するが、事実に一致しない。ミニマリスト・アプローチで仮定されているようにボトムアップで派生が進むのであれば、主節まで至る前に派生が崩壊し、(18) の埋め込み文そのものが生成されない。一方、(18b) は派生の途中で崩壊することはなく、主節まで派生が進む。(18) に示されているこの事実は、PF パラレリズムに修正を加えるかその他のパラレリズムで規定する必要があることを示している。

そこで、Fox (2000) が主に VP 削除現象に説明を与えようとして提案した以下のパラレリズムの概念で (16) の例を考察してみよう。Fox は、(19) のような削除に対する LF 部門でのパラレリズムを提案している。

(19) LF パラレリズム

削除は、削除を含む文の LF 構造が先行文の LF 構造と構造的に同一である場合に可能となる。 (cf. Fox (2000))

このパラレリズムを念頭に置き、(16) を考えてみよう。(16) の先行文は、Heim などに従うと以下のような LF 構造をもっていると仮定できる。

(20) there is somebody involved (PF)
(∃ x: person (x)) (x is involved) (LF)

一方、後続文は (21) のように LF 構造を表すことができる。

(21) I don't know (what x: person (x)) (x is involved)

LF 構造で表してみると、(20) と (21) の IP の LF 構造は同一の構造を形成していることが分かる。これは、(19) で示した Fox の LF パラレリズムの概念に問題なく一致する。

このことから、これまで提案された LF コピーや PF パラレリズムは、間接疑問文削除に関する分析としては、必ずしも正しいものではなく、別の分析が求められることが映画のセリフなどから示唆されることが分かった。

この LF パラレズムは、(22) のような事実にも適用できるかもしれない。

(22) I want to get Capone. I don't know how. (The Untouchables)

(22) では、先行文に疑問詞と対応する不定名詞が存在しないが、およそ以下のような LF 構造を仮定できる。

(23) (∃ x: way (x)) I want to get Capone in x.
I don't know (what x: way (x)) I want to get Capone in x.

先行文の LF 構造と第 2 文の LF 構造が一致しているため LF パラレリズムを満たしていると言える。このような事実からも Fox (2000) などで主張されている削除に関する一般化を適用できることが分かった。

4. まとめ

本論では、映画英語データベースからのデータを用いて、生成文法で長らくその派生方法が議論されている間接疑問文削除に焦点をあて、その分析方法を考察した。映画英語に見られるデータから、これまで提案されている分析は、理論の発展に従って必ずしも妥当とは言えず、新たな分析が必要であることを示した。

生成文法は、論理学、心理学、認知言語学などの関連分野が進むにつれてさらなる進展が求められている。その研究に、映画英語のデータを用いることは、今後非常に有益となるであろう。理論言語学研究などで提示される例文は、言語学者が理論研究のためだけに作例をした無意味な例などと批判を受けることが多かったが、このアプローチは実例に近く、言語学を学ぶ学部学生にとっても良い動機付けになると言える。

注

*本論は、2008年、京都府立ゼミナールハウスで行われた「メビウスサマーセッション2008」で行った講演「Are "invisible" elements visible? —間接疑問文削除を中心に—」の内容に加筆および修正を施したものである。

1. 「ATEM関西支部映画英語字幕データベース」は、DVDに含まれる字幕情報を基に構築されているため、実際映画の中で発話されているセリフと異なるものもある。一方、スクリーンプレイ社が提供するデータは、実際の映画の発話を基に編集されているため、DVD字幕には現れないものも正確に記述されている。
2. PF分析を支持する多言語を交えたその他の議論は、Merchant (2001) を見よ。
3. Hirai (2009) は、ミニマリスト・プログラムの点から、#の導入は必ずしも適切ではないことを主張している。詳しい議論は、Hirai (2009) を参照してもらいたい。
4. 英語母語話者は、(i) の例は適切文だと判断している。(17) や (ii) との文法性の差異に関しては、さらなる議論が必要であるが本論の主旨と異なるので、今後の課題としたい。

   (i) a. What is there packed in the box?

   b. What is there left in the showcase?

   (ii) *?Who is there involved in the accident?

参考文献

Chomsky, Noam (1972) "Some Empirical Issues in the Theory of Transformational Grammar," *The Goals of Linguistic Theory*, ed. by S peters, 63-130, Prentice-Hall, Englewood Cliffs, NJ.

Chomsky, Noam (1995) *The Minimalist Program*, MIT Press, Cambridge, MA

Chomsky, Noam (2008) "On phases," *Foundational Issues in Linguistic Theory: Essay in*

Honor of Jean-Roger Vergnaud, ed. by Roger Freidin, Carlos P. Otero, and Maria Luisa Zubizarreta, 133-166. Cambridge, Mass.: MIT Press.

Chung, Sandra, William Ladusaw, and James McCloskey (1995) "Sluicing and Logical Form," *Natural Language and Semantics* 3:239-282.

Fox, Danny (2000) *Economy and Semantic Interpretation*, MIT Press, Cambridge, MA.

Fox, Danny and Howard Lasnik (2003) "Successive Cyclic Movement and Island Repair: The Difference between Sluicing and VP Ellipsis," *Linguistic Inquiry* 34: 143-154.

平井大輔 (2008) Are "Invisible" Elements Visible? —間接疑問文削除を中心に—、2008 メビウスサマーセッション、於　京都府立ゼミナールハウス

Hirai, Daisuke (2009) "A Minimalist Approach to Sluicing," *Ivy Never Sere*, The Fiftieth Anniversary Publication of The Society of English Literature and Linguistics, Nagoya University, 3-320. Nagoya University.

Merchant, Jason (2001) *The Syntax of Silence: Sluicing, Islands, and the Theory of Ellipsis*. Oxford, University Press.

Reinhart, Tanya (2006) *Interface Strategies: Optimal and Costly Computations*, MIT Press, Cambridge, MA.

Ross, John (1969) "Guess Who?" *CLS* 5, 252-286.

データベース

「ATEM 関西支部映画英語字幕データベース」、映画英語教育学会関西支部データベース委員会

「映語犬サク」スクリーンプレイ社ホームページ (http://www.screenplay.co.jp/)